令和８年度　鬼塚小学校だより

創 ～クリエイト～ CREATE

えがお　しあわせ　みらいをつくる

唐津市立鬼塚小学校
2026年6月16日（火）
第 5 号
文責　校長：栗本 洋二
鬼塚小 Web

自分が主役の学びをつくろう

鬼塚小 スマイル∞インフィニティ プロジェクト
Smile 笑顔（えがお） Infinity 無限大（むげんだい） Project 計画（けいかく）

６月の全校朝会。校長から次のような話をしました。

今回は、鬼塚小「笑顔無限大計画＝スマイル∞インフィニティ　プロジェクト」の２つ目。「自分が主役の学びをつくろう」について。

●自分が主役の学びをつくろう
先生や友達から「教わる」ことよりも自分で「学ぶ」ことを増やそう。「ゴールを決めて」「順番を考えて」「自分にぴったりのやり方で」取り組んでみよう。「学びの山」が手助けしてくれるよ。

「教わる」とは誰かに教えてもらうこと。「学ぶ」とは自分で考えたりやってみたりして身につけること。学校では先生から「教わる」ことが多いですが、本当に大切なのは「教わった」ことを思い出しながら、自分で考えたり試したりして「学ぶ」ことのほうです。

なぜなら、「教わった」ことより「学んだ」ことのほうが、一生懸命頭や体を使った分だけ忘れないから。それに、いつも教えてくれる人がそばにいるわけではなく、自分ひとりで考える力が必ず必要になるからです。

ですから「教わる」ことより「学ぶ」ことのほうを増やしていってほしいのです。

毎日の授業が一番の「学び」の場。教わることもありますが、自分で考えたり試したりして学ぶ時間です。授業の主役は先生ではありません。授業の主役はみなさん一人一人です。「授業」は、「学び」は、自分がつくっていくものと考えてください。

例えば「ゴールを決めて」「順番を考えて」「自分にぴったりのやり方で」取り組んでみるといいですね。そこで役に立つのが「学びの山＝ラーニング・マウンテン」。新しい勉強を始める時に、みんなで「ゴールを決めて」、みんなで「順番を考えて」山に登ることは、自分たちが主役の「学び」です。そして山の登り方はいろいろあっていい。友達と同じやり方でなく「自分にぴったりのやり方で」山に登るのも、自分が主役の「学び」です。

こうして、学びの山をうまく使いながら、「教わる」ことよりも「学ぶ」ことを増やしていってほしいと思います。

自分が主役の学びの先に、「えがお　しあわせ　みらいをつくる　鬼塚小学校」を、みんなで目指しましょう！

多くの学級で「学びの山」を掲示しています。全市の取組です。教室に入られる機会がありましたらぜひご覧ください。次の機会に３つ目「ワクワクを探して育てよう」について話します。

受け継いでゆく 愛と勇気 ～6月3日ハナ子まつり～

悲しい水の事故が二度とないように

中尾ハナさん。親しみと愛情をこめてハナ子と呼ばれるようになったとか。「ハナ子まつり」は、自らの命と引き換えに小学生の命を救った彼女の愛と勇気に感動した鬼塚地区の人々によって続けられてきました。鬼塚小が受け継いでからは、プールの時期に合わせて、安全で楽しい水泳の学習ができるようにとの願いも加えて行っています。

今年も、唐津西高校から鬼塚小の卒業生が話しに来てくれました。西高は、ハナさんが亡くなった当時通っていた学校です。生徒さんからは「楽しい時間を過ごすためにも周りをよく見て危険なことはしないように気を付けてください」とのメッセージをいただきました。

地域に残す大切な物語。「ハナ子まつり」を本校の宝物、伝統として受け継いでいきます。

知って、守って、伝えよう！ ～鬼中校区3校 PTA 教育講演会～

唐津市教育の日（6/14）は、鬼塚中、鬼塚小、久里小の３校合同の教育講演会。

今年は「子どもとメディア」がご専門の江頭久美先生をお招きしました。みなさん実感されているとおり、日々進化を続けるメディアによって格段に便利になる一方で、子ども達に与える様々な影響については分からないことが多く、心配は大きくなるばかりです。そうした中、「スマホ子育てでは共感力や語彙力が育たない」「家族総出でデジタルデトックスする」「不適切な使用に至った背景に目を向ける」など、たくさんの助言をいただきました。スマホでぴたりと泣き止む「スクリーン症候群」の幼児の動画は特に衝撃的でした。

参考資料はネットにも多数あります

大人たちの手で子どもの未来を守りましょう。手遅れにならぬよう。

登下校中や休日のお子さんの過ごし方、ご存じでしょうか？

例えば登下校中に「友達のお母さんの車に乗せてもらった」「ケガの手当てをしてもらった」とか、休日に「家の人がいない友達の家に上がった」「〇〇をごちそうになった」など。我が家でも過去、あとで人づてに聞き慌ててお礼に伺うような“冷や汗体験”がありました。

子ども達は、年々行動範囲が広がる一方で、親に話さないことが増えていきます。どうぞお子さんとの対話の中で、地域での望ましい振る舞いや、親に伝えることの大切さについても話題にしていただきたいと思います。大人として円滑な社会生活を営むための準備運動に。